

令和8年6月 30 日
独立行政法人 家畜改良センター

黒毛和種、褐毛和種(高知系・熊本系)及び日本短角種の
遺伝的能力の推移を公表しました

- 1 家畜改良センターでは、肥育農家の同意が得られた枝肉情報等からなる和牛各品種のデータベース(以下、「枝肉DB」といいます。)を管理・運営しています。枝肉DBを構築するにあたり、肥育者情報、格付情報の調査・入力等については(公社)日本食肉格付協会が行い、肥育牛の子牛登記情報の入力等については(公社)全国和牛登録協会(黒毛和種・高知系褐毛和種)、(一社)日本あか牛登録協会(熊本系褐毛和種)及び(一社)日本短角種登録協会(日本短角種)が行っています。
- 2 枝肉DBを構築する目的の一つは、全国的な改良の動向を把握することであり、この度、家畜改良センターにおいて、枝肉DBに蓄積された情報を用いて令和 7 年と畜分までの分析が終了した、黒毛和種、褐毛和種(高知系・熊本系)及び日本短角種の遺伝的能力の推移を昨年引き続き、ウェブページで公表しました。
- 3 概要を添付しますが、詳細は、家畜改良センターのホームページの「トップ」>「家畜改良」>「肉用牛枝肉情報全国データベース」(<https://www.nlbc.go.jp/kachikukairyo/data/index.html>)に掲載しておりますので、ご参照下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人家畜改良センター改良部情報分析課

担当者 : 平間、小林

メール : [beef-db※nlbc.go.jp](mailto:beef-db@nlbc.go.jp)

(※を@に変えて送信してください。)

電話 : 0248-25-4904(直通)

F A X : 0248-25-3982

U R L : <https://www.nlbc.go.jp/>

『日本の畜産 改良と技術で育てます』

概要

今回公表した黒毛和種、褐毛和種（高知系・熊本系）及び日本短角種の遺伝的能力の推移は、2025年12月と畜分までのデータ（黒毛和種：約517万件、褐毛和種（高知系）：約0.8万件、褐毛和種（熊本系）：約12万件、日本短角種：約2万件）を用いて算出しました。

黒毛和種の評価形質は、日齢枝肉重量、枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さ、皮下脂肪の厚さ、歩留基準値及びBMSの7形質です。褐毛和種（高知系・熊本系）及び日本短角種は、これら7形質に加え、BCS、しまり及びきめも評価しています。

なお、2025年度より参考情報として遺伝相関（2つの形質間の遺伝的な関連性がどの程度なのかを表したもの）等に関する情報提供を開始しました。

今回の結果から見受けられる遺伝的能力の推移における主なポイントは以下のとおりです。（詳細は、報告書本体をご覧ください。）

1. 黒毛和種

（1）種雄牛

- ・各形質とも、概ね順調に改良されている。
- ・直近においては、ロース芯面積、歩留基準値及びBMSで改良が顕著である。

（2）繁殖雌牛

- ・近年、日齢枝肉重量、枝肉重量及びバラの厚さで改良が停滞する時期があったが、直近においては順調に改良が進んでいる。

2. 褐毛和種（高知系）

（1）種雄牛

- ・生産頭数が極めて少ない年があるため、結果を示していない。

（2）繁殖雌牛

- ・各年の生産頭数が少ないため、直近の遺伝的能力の推移は大きくばらついている。
- ・日齢枝肉重量、枝肉重量及びロース芯面積は緩やかに改良されている。

3. 褐毛和種（熊本系）

（1）種雄牛

- ・各年の生産頭数が非常に少ないため、遺伝的能力の推移は大きくばらついている。
- ・各形質とも、概ね順調に改良されている。

（2）繁殖雌牛

- ・各形質とも、概ね順調に改良されている。
- ・特にロース芯面積及び歩留基準値で改良が顕著である。

4. 日本短角種

（1）種雄牛

- ・各年の生産頭数が少ないため、遺伝的能力の推移が大きくばらついている。
- ・日齢枝肉重量やBMSにおいて、概ね緩やかに改良が進んでいる。

（2）繁殖雌牛

- ・日齢枝肉重量やBMSにおいて、概ね緩やかに改良が進んでいる。